



赤麻小だより

第8号

平成26年7月16日

発行所：栃木市立赤麻小学校校長室

夏の風と日射しが校庭に熱気を運んでいるこの頃。暑さも本格的になって参りました。休み時間の校庭には、暑さに負けず遊ぶ元気な子供たちの声が響いています。

1学期もいよいよ18日(金)に終業式を迎え夏休みとなります。1学期における保護者の皆様、地域の皆様、そしてボランティアの皆様の温かいご支援には本当に感謝いたしております。ありがとうございました。夏休みは長いお休みとなりますが、学校ではできない体験活動に取り組んだり、家族と一緒に過ごしたりして、普段の生活で不足しがちな三つの「間」、場所(空間)・時間・仲間を工夫し有意義な夏休みを過ごしてほしいと思っております。学校では、夏休みに向けた心構えや過ごし方について、学年だよりなどで保護者の皆様にご理解ご協力をお願いしておりますが、何より願うことは、**子供たちの命の安全**です。

2学期の始業式9月1日(月)には、元気な子供たち全員と会うことを楽しみにしております。



子どもたちの活動から

【4年生の総合的な学習における福祉教育から～高齢者疑似体験～】



(左上) 車いすで段差のあるところを移動するのは、なかなか難しそうです。

(右上) 傾斜のあるところは登りも下りも大変です。車いすを操作するのも介助して押すのも技(?)がいりそうです。



(左下) 高齢者の見え方を疑似体験できる眼鏡をかけ、手や指先の感覚や動きを疑似体験できる手袋をしてふたを開け閉めしたり品物をケースに入れたり…。

(右下) 本のページをめくるのも至難の業のようです。

4年生は7月1日(月)に、社会福祉協議会の協力を得て高齢者疑似体験学習を行いました。この体験学習では、子供たちが現在生活する中で不便に感じないものも、高齢者や身体に不自由さをもつ方にとっては、生活しにくさを感じることがあると実感し、誰にでも安心安全の人に優しい社会について考えていきます。

体育館で疑似体験をしましたが、子供たちはどの体験をしても、思うように活動できないもどかしさを感じたようです。実際の街の中は、さらに多くの不自由さが至る所にあるのです。これらの実践をとおして学校では、物事を見るときや感じ考えるとき、自分のもつ「ものさし」だけを基準にするのではなく、相手の立場に立った考え方や感じ方で正しく判断したり行動したりする実践力や態度、思いやりの心等を育成してまいります。ただし、これらが目に見えて即育つものでもありません。子供たちの中に種を蒔き、生活の中で高齢者や身体に不自由さをもつ方への言動が、優しさや思いやりの感じられるものとなるよう、機会を捉えて指導支援してまいりたいと思います。



校庭の樹木が伐採されました

柳と椎の木が伐採されました。



(左)柳の切り株
(中)椎の木の切り株
(右)伐採後の校庭南側の風景

校庭南側には桜の木をはじめ、トチノキ・椎の木・柳などの大木が並んでいます。日差しが強くなる春から夏のこの季節は、大きく広げた枝葉がちょうど良い木陰をつくり、心地よい風を運んでくれるのです。ところが、学校の歴史とともに樹木も年齢を重ねていたのです。特に、老木となり強い風雨に耐えられず枝が大きく折れたり裂けたりした柳と椎の木は、倒れる危険性が高いので伐採することといたしました。今回、市教育委員会教育総務課の職員の方が2日間にわたり伐採作業をしてくださり、7月10日(木)に写真のような切り株が残り、校庭の南側の樹木の間から空が顔を出す風景となりました。柳の木の中はカミキリムシの住まいとなっていたようで、中から幼虫や成虫が出てきました。

その他桜なども、太い幹にキノコが生えていたり空洞の腐朽部ができてはじめてたりと、人間に例えれば体力が衰え免疫力が低下した症状が現れているようです。すぐに倒れるわけではありませんが、子供たちに危険のないよう、今後伸びすぎた枝を切り落とし、幹にかかる負担を軽くするなどの対応をしてまいりたいと思います。



1学期を振り返ってみました

新学期がスタートするに当たり、赤麻小学校のめざす児童像を達成するため、次の三つを始業式で話しました。様々な教育活動をとおり、少しずつ成長を感じる4か月間でした。

- (1) 「元気なあいさつ」
具体的には**大きな声であいさつをすることが「元気なあいさつ」と捉え**、今後も全校でこの目標に取り組んでまいります。
- (2) 「どうせやるなら全力で」
数々の行事、教育活動の様子、校外における活動の報告等、子供たちが勉強や運動に限らず、何事にも一生懸命取り組む姿を学校だよりの中で紹介してまいりました。時には失敗や挫折を味わうこともありますが、それを踏み台にして次の目標をもち、意欲的にチャレンジできるよう、2学期も支援してまいります。
- (3) 「やさしい言葉の使える人に」
学年を超えた集団活動や行事では、友だちに優しく声をかける姿や下級生をいたわり声をかけながら活動する姿、そして、相手の気持ちを思いやり元気になる言葉を使える子どもたちも増えてきました。言葉は自分の心を相手に伝え人間関係を豊かにする大切な道具です。ますます日々の生活の中で言葉を大切に使えるよう、子供たちとともに取り組んでまいります。



まもなく土用の入り、そしてもっとも暑い真夏を告げる大暑にもなります。暑さに負けそうですが、夏を楽しんだり涼しく感じさせる風物詩が日本にはたくさんあります。土用のうなぎ・暑気払い・風鈴・花火・蝉時雨・蛭狩り…。どうぞ安全に気を付け、夏休みを元気にお過ごしください。

